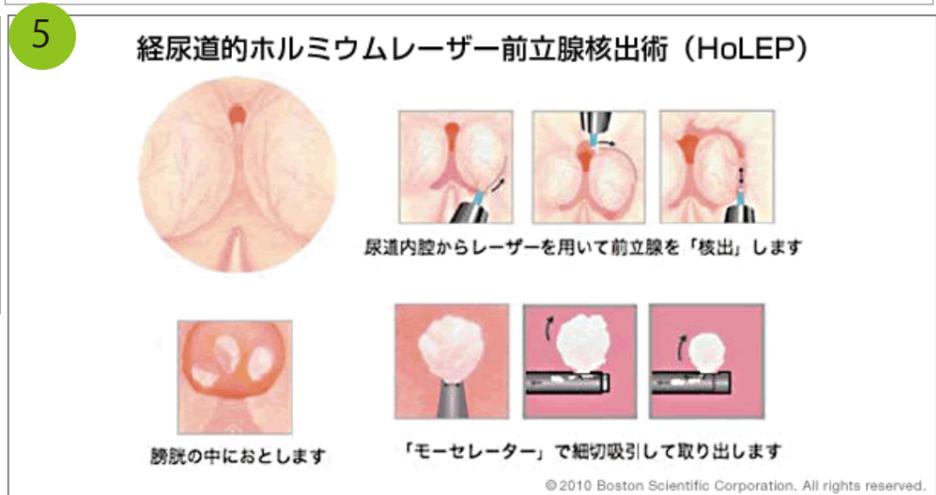
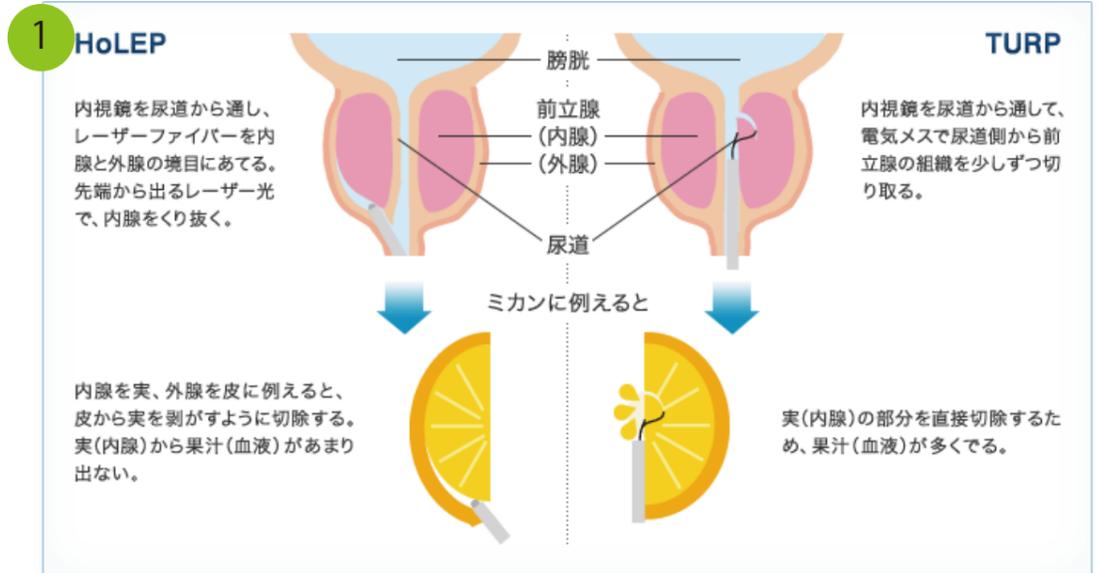


前立腺肥大症レーザー治療：HoLEP(ホルミウムレーザー前立腺核出術)

当科では近年増加の一途をたどる前立腺肥大症の低侵襲治療として、ホルミウムレーザーによる前立腺手術（HoLEP）を導入しています。HoLEPは前立腺肥大症に対する新しい治療法で、内視鏡の先についたレーザーメスで肥大した前立腺腺腫を安全確実に切除していく手術です。これまで主流な手術術式であった経尿道的前立腺切除術（TURP）よりも出血、術後の疼痛が少なく、安全に行うことができます。また100mlを超える前立腺に対しても施行可能であり、腺腫を確実に核出するという手術方法で、再発が少なくサイズに関係なく治療できるというメリットがあります。



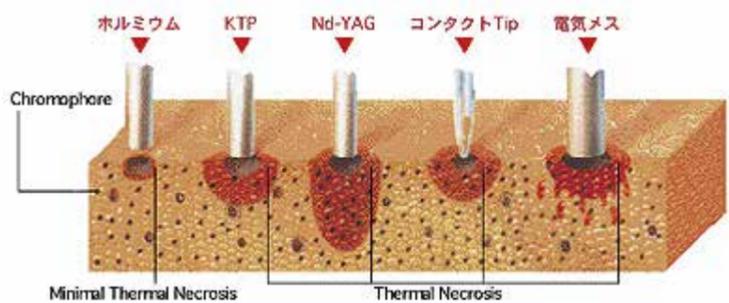
HoLEP 治療のメリットとは？

1. メスを使用しない、身体に優しい

内視鏡を使用するためメスで腹部を切ることがありません。身体への負担が少なく、QOL(Quality of Life:生活の質)向上に貢献できる手術です。

2. 高い安全性、少ない合併症

ホルミウムヤグレーザーは、水への吸収率が高いため、組織到達深度はわずか0.4mmです。また、レーザーファイバーの先端を組織から5.0mm離すと組織に影響を与えません。つまり尿道や膀胱内が水で満たされていれば、他の組織に影響を及ぼすことなく照射できます。2.0mm以下の距離で組織の切除が可能となり、同時に組織を焼くことで止血を行います。そのため出血が少なく切除痕の回復も早くなります。



図：各種レーザー、電気メスによる組織への熱侵襲の比較
ホルミウムレーザーは組織への熱侵襲を最小限に抑えられます。

従来の内視鏡手術 (TUR-P) では、手術の際の出血や切除片を洗い流すために非電解質の灌流液を使用していました。

この灌流液が体内に吸収されることで「低Na血症」という合併症を起こすことがあります。

しかし、HoLEPでは血液・組織液と浸透圧の等しい生理食塩水を灌流液として使用するため「低Na血症」はほとんど起こりません。

2. 高い安全性、少ない合併症

ホルミウムヤグレーザーは、水への吸収率が高いため、組織到達深度はわずか0.4mmです。また、レーザーファイバーの先端を組織から5.0mm離すと組織に影響を与えません。つまり尿道や膀胱内が水で満たされていれば、他の組織に影響を及ぼすことなく照射できます。2.0mm以下の距離で組織の切除が可能となり、同時に組織を焼くことで止血を行います。そのため出血が少なく切除痕の回復も早くなります。

3. 痛みが少ない

HoLEPは、前立腺組織のうち血管が少ない外腺と内腺の境目を切除しますので、出血や術後の痛みが少ない手術です。そのため鎮痛剤の使用頻度も少なくなります。

4. 入院期間が短い

上記の理由で術後の尿道カテーテル(管)の留置期間も短くなり、結果的に入院期間の短縮というメリットも生まれます。

5. 再発がほとんどない

HoLEPでは、肥大した前立腺組織(内腺/腺腫)を核出するため、残存組織が少なく、再発の可能性はほとんどありません。

前立腺疾患でお困りの方、HoLEP治療に興味のある方は当科にお問い合わせ下さい。